

がんばろう日本！がんばろう東北！

東日本大震災への支援活動

羽幌町からの支援の状況

(6月以降分)

◆宮城県石巻市へ職員を派遣

関係機関との調整や被災地の受け入れ体制が整い次第、人的支援として役場職員を派遣する準備をしていましたが、石巻市からの要請に応じて実施しました。また、派遣の際、支援物資を届けました。

【期間】6月11日～7月7日

【派遣先】宮城県石巻市

【派遣職員数】8人(2人1組4班を派遣)

【業務】各班1週間ずつ避難所の運営、管理

【支援物資】

レトルト食品300食(牛丼中華丼各150食)

女性用下着120着(ショーツノースリーブシャツ各60着)

男性用下着30着(半そでシャツ)

キッチンペーパー(4個入り12袋)

◆3県へ義援金を送金

被災された方々が通常の生活を取り戻すまでには更なる時間と支援が必要です。その心労と、被災者のために何か手助けがしたい」という町民のみなさんの気持ちを思い、町は義援金を送金しました。各県の義援金配分委員会を通じ、被災者のみなさんに届けられます。

【義援金の額】岩手県、宮城県、福島県の3県に各100万円(総額300万円)



派遣期間	派遣職員
1班 6月11日 ～6月19日	学校管理課主事 木村 康治 総務課主事 土清水 彬
2班 6月17日 ～6月25日	産業課主事 近藤 優樹 福祉課主事 西山 卓
3班 6月23日 ～7月1日	総務課主事 宇野 延仁 町民課主事 藤田 俊悟
4班 6月29日 ～7月7日	建設水道課主事 高野 正晃 総務課主事 廣谷 将大

被災地派遣

支援活動レポート

派遣第一班
学校管理課 木村康治



今も

石巻市では、5千名を超える被災者の方々が84か所の避難所で生活しています。私たちは、121名が避難生活をしている石巻高校で支援にあたりました。避難所に設置された本部に詰め、市からの連絡を避難者へ伝えたり、避難者の意見や要望、質問などを取りまとめ、市へ伝えるなど連絡調整の役割が主な仕事で、その他トイレトイレットペーパーや洗剤など日用品の管理・配分や、各地から来るボランティアの受付など様々な避難所の運営業務にあたりました。

避難所

では、朝6時起床の後、避難者の代表者を中心に避難者全員によるミーティングが毎日行わ



派遣第1班土清水(左)木村(右)

れます。日中は、学校や職場へ行ったり、自宅や自宅跡へ修理や片付けなどに行くなど様々。高齢者はそのまま避難所で一日過ごします。食事は自衛隊による炊き出しで、お風呂は徒歩10分程の所に自衛隊が設置したお風呂がありました。夜は10時に消灯です。体育館に薄いマットを敷き、毛布をかけて雑魚寝のイメージで、個人のスペースやつい立など無いに等しく、誰もが体調・衛生管理に注意を払っていました。

被害の

最も大きかった場所は、今や見渡す限りのガレキ。その場に立った私たちは一言も発する事が出来ないほど。聞こえるのはガレキの撤去作業にあたる重機

の音だけで、全身から力が抜けていく感覚を覚えています。

震災発生から4カ月が経過し、仮設住宅の建設が進んでいますが、入居申込をしても、未だ当選しない方ばかりです。余震もたびたびある中、住むところ、これからの仕事のこと、家族のことなど、私たちの想像を絶する不安を毎日抱えて暮らしています。

「自分たち

にできる 精一杯の努力で、被災者の心の支えとなる支援」を目標にして業務にあたりましたが、「心を込めて聞いて、話して、行動する」という職員としての基本を改めて気付けられました。町職員8名が約1カ月に渡って被災地へ派遣されたことを今後役に立て、心から災害が発生しないことを祈りますが、万一の際には、被災者の気持ちを代弁できる職員として役に立ちたいと思います。